

## 令和5年度 第1回 総合教育会議

### ご質問と回答

令和5年7月1日（土）に開催した総合教育会議の第1部「新たな学びの実践に向けて」にて、お寄せいただいた区に関する質問及び回答（世田谷区及び世田谷区教育委員会による回答）を掲載いたします。（当日の会議では、お寄せいただいた質問を踏まえ、区長、教育委員会が議論を行いました。下記 URL（YouTube 世田谷区オフィシャルチャンネル）よりご覧ください。）

※当日の会議の様子はこちら

<https://youtu.be/v4tt0a8ynr0>

#### いただいたご質問（要旨）と回答

ご質問：多様な学びを学校教育の中でどこまで取り組めるでしょうか。

回答者：世田谷区教育委員会

回答：多様な子どものニーズに的確に 대응していくためには、教員だけの対応では限界があります。校長のリーダーシップの下、校内の支援体制を確立し、学校全体で対応するほか、様々な機関や学校間の連携を推進することや、地域の教育資源を生かすことで、より一人一人の子どもに合った学びの実現につながると考えております。

ご質問：「学校は子どもたちの学びのホーム」というお話がありましたが、今後求められる学校や教師の役割はどのようなものだとお考えですか。

回答者：世田谷区教育委員会

回答：今後の学校教育においては、一斉指導で教師から一方的に知識を教え込むのではなく、一人ひとりの学びが尊重されることを基本とし、多様な学びの中から、自分で判断し、選択することが重要です。また、多様な他者とともに協働・協力して問題の発見や解決に挑むことも重要になります。他者との協働の中で、気付きや目標を持ち自分の力が生かされることを実感することが更なる活動の原動力になります。そのような学びのすべてを学校の外に求めるということではなく、学校外の資源も効果的に活用しながら、一人ひとりが学びの主体となり、自分の人生をデザインしながら自分らしく学ぶことができる環境を整えることが、今後の学校や教師に求められる役割であると考えております。

ご質問：新たな学びを進めていくうえで、保護者の理解を得るにはどのようにすればよいと思いますか。

回答者：世田谷区教育委員会

回答：教育委員会としては、様々な場面や方法で、これから世田谷区が目指す教育について積極的に発信をしてまいります。保護者や地域の方に理解していただくには、各学校の実践に直接触れていただくことが大切であると考えております。学校説明会や学校公開、学校だよりや学校ホームページ等による発信を工夫し、より実感をもってご理解いただけるよう取り組んでまいります。

ご質問：総合教育会議や、区の教育目標について、現場の教員に内容は伝達されているのでしょうか。

回答者：世田谷区教育委員会

回答：総合教育会議については、園や小・中学校にオンラインでの視聴と YouTube 区公式チャンネルでの視聴をお願いしております。また、教育目標や基本方針などについては、合同園長・校長会や教員研修等で周知しております。引き続き、教育目標や基本方針等の情報共有と周知に努めてまいります。

ご質問：不登校特例校を増やす予定はありますか。

回答者：世田谷区教育委員会

回答：区では、これまでほっとスクールの運営の拡充や不登校特例校分教室の開設などに取り組んでまいりましたが、不登校の児童・生徒数の増加により、依然としてその受入れ体制は不足していると認識しております。昨年度実施した不登校の子どもやその保護者を対象に実施したニーズ調査の分析や、不登校特例校分教室運営の効果検証の結果も踏まえながら、不登校特例校や新たな居場所の確保策など、受入れ体制のさらなる拡充に向けた具体的取組を検討してまいります。

ご質問：中学校の情緒級を増やす予定はありますか。

回答者：世田谷区教育委員会

回答：中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級は令和 5 年 4 月現在、2 校に設置しております。また、特別支援学級については、世田谷区特別支援学級等整備計画に基づき整備をしておりますが、令和 6 年度に計画の見直しを予定しておりますのでこの中で検討してまいります。

ご質問：昨年度実施していた不登校に関するアンケートは、どのように活用していますか。

回答者：世田谷区教育委員会

回答：増加する不登校児童・生徒への更なる支援の充実を進めるため、不登校支援に対するニーズ等について調査を実施しました。不登校支援に係るニーズ等を把握した上で、現在策定中の「不登校対応ガイドライン」や、今後の教育施策に活かしてまいります。

ご質問：フリースクールへの支援の拡充も必要だと思いますが、今後、経済的な助成を検討していますか。

回答者：世田谷区教育委員会

回答：他自治体では、一定の基準でフリースクールの審査を行い、連携している例もあると聞いておりますが、国や都の動向を注視するとともに、フリースクールとの連携の在り方などについて引き続き研究してまいります。

ご質問：新たな学びを進めるためには、ヒト・カネ、モノの充実が大切だと思いますが、区としてその充実に向けてのプランはあるのでしょうか。またプランがあるとすれば、その充実に向けてのロードマップはありますか。

回答者：世田谷区

回答：より多様化・複雑化・個別化する区民ニーズや現実的に差し迫る行政需要に直実に対応し、区民福祉の向上を図るとともに、持続可能な自治体経営を確立するため、区は、令和6年度から令和9年度を計画期間とする「（仮称）新たな行政経営への移行実現プラン」を今年度末に策定すべく検討を進めています。

プランでは、区民目線による行政サービスの向上や従来の枠組みを超える行政スタイル構築に取り組むとともに、多様な連携強化による経営力向上を図り、また、経営資源を適切に投入することによって、その効果を最大限発揮する体制を目指していきます。

広い視野からの庁内連携や時代に即した事業への見直し、デジタル技術活用により効率的な体制を構築し、生み出した資源を「新たな学びの実践」など重点的な施策に投入してまいります。

ご質問：性教育が今のままでいいとお考えでしょうか。

回答者：世田谷区教育委員会

回答：現在、インターネット等を介して性に関する様々な情報が氾濫しており、子どもたちが性に関して誤った知識を身に付けてしまう等のリスクにさらされていることや、SNSを介した性犯罪やデートDVなど性に関する多くの問題が起こっている現状を踏まえると、自分自身を大切にすることや自分の体や命を守ること、自分とともに他者も大切な存在であること等を子どもたちへ指導することが重要であると考えております。

このような状況を踏まえ、中学校においては、産婦人科医や助産師、男女共同参画センターらならず、乳幼児の子育て支援のNPO法人と連携した様々な出前講座を実施して、中学生が包括的性教育の観点に照らした内容を専門家等から学ぶ取組を行っているところです。引き続き、子どもたちが性に関して正しく理解し、適切に行動を取れるようにするとともに、自分らしさを発揮し、生き生きと生活できるよう、子どもの発達段階を踏まえ、保護者等の理解・協力を得ながら指導してまいります。